特集 基礎学力の育成

# 文型・文法を聞いて話して学ぶ活動
## —CHECK ITの紹介—

酒井英樹（信州大学）

### 1. はじめに

英語の基礎学力のひとつに，文型・文法の力がある。文型や文法のしくみを理解するだけでなく，実際にその文型や文法を含む英語を聞いたり読んだりしたときに理解できたり，その文型や文法を使って表現できる学力を身につける必要がある。2006（平成18）年度版 *NEW CROWN*（以下，*18NC*）の CHECK IT は，聞くことや話すことの反復練習を通して，このような学力を育成することを目指している。本稿では，CHECK IT の活動内容，基本的な考え方，指導手順の例を紹介する。

### 2. CHECK IT の活動内容

下の CHECK IT（2 年 LESSON2，be 動詞の過去形）を見ていただきたい。基本文は，Tom was busy yesterday. である。この基本文の文型・文法を練習する活動が CHECK IT であり，各セクションに設けられている。

CHECK IT では聞く活動と話す活動の 2 つが用意されている。「聞いてみよう」の活動では，生徒は英語を聞いて，英語の意味に合う絵を特定する。ここで使われる語彙は原則として既出である。リスニング・スクリプトと活動内容は次の通りである。

POINT　Tom was busy yesterday.
（基本文の内容を星印の絵で確認する。）
No.1　Amy was late yesterday.
（B の絵の下に 1 と書き込む。）
No.2　Miki was happy yesterday.
（A の絵の下に 2 と書き込む。）
No.3　Koji and Miki were busy yesterday.
（C の絵の下に 3 と書き込む。）

「話してみよう」の活動では，生徒は与えられたヒントを参考にして絵を見ながら英文を発話する。スクリプトと主な活動内容は次の通りである。

POINT　Tom was busy yesterday.
（生徒は基本文を繰り返す。）
A: Miki, Happy
（生徒は Miki was happy yesterday. と発話。）
Miki was happy yesterday.
（生徒は正解の文を繰り返す。）

同様に，B: Amy, late，C: Koji and Miki, busy というヒントが出されて，生徒は

Amy was late yesterday.
Koji and Miki were busy yesterday.

と発話する。

このように，聞く活動では基本文の文型や文法を使った英語を理解することが求められ，話す活動で

は基本文の文型や文法を使った英語を表現することが求められている。

## 3. CHECK IT の特徴と基本的な考え方

2 つの特徴を中心に，CHECK IT の基本的な考え方を紹介する。

### (1) 聞く活動→話す活動という配列

十分なインプットがあって，はじめてアウトプットが可能になる。文型や文法を学んでいく過程においても，理解から表出へという展開が有効であろう。理解には英語の意味の理解と文型・文法のしくみの理解があることを考えると，文型や文法を含む英語の意味がわかる段階，インプットの中で文型や文法に気づいたり，文型や文法のしくみを理解する段階，その文型や文法を使いながら表現できる段階が考えられる。CHECK IT の活動は，この流れに対応している。

「聞いてみよう」の活動では，既習語彙が使用され，絵が提示されているため，新しい文型や文法を知らなくても，生徒は「聞いてみよう」の活動に取り組める。この活動では英語の意味の理解が焦点となる。英語の意味が理解できたら，どんな英語で表現されていたかという形式面にも注目させていきたい。そうすれば，活動の中で音声提示される英文は，基本文の文型・文法を使った例文として機能し，生徒に多くの例文を浴びせることができる。

「話してみよう」は，ヒントが与えられ，聞く活動ですでに聞いている英文を自分で組み立てていく活動である。この活動の中でどのように英語で表現されていたかという点に生徒の意識が向く。そして自分で発話をした後に，正解の英文を聞く。この繰り返しによって，文型や文法のしくみの理解を深めていったり，表現する練習を行ったりする。

このように，生徒は文型や文法のしくみを理解するだけでなく，理解や表出の両面で使用できるようにする基本的な練習を行うことになる。

### (2) 意味と形式(form)をつなげる活動

*14NC*（現行版）では LET'S COMMUNICATE にドリル的な活動とコミュニカティブな活動が混在していた。*18NC* では，意味を重視したコミュニケーション活動である USE IT とは別に，基本文の定着のための CHECK IT が各セクションに位置づけられている。

CHECK IT の主な目的は，意味と形式（form）を一致させることである。USE IT と比べて形式重視の活動であるといえるが，絵とヒントを手かがりに表現させることによって，意味をないがしろにした機械的な文型練習（パターンプラクティス）にならないように配慮されている。絵の意味を考えながら表現していくことが重要であり，最初のうちは流暢に発話できる必要はない。

## 4. CHECK IT の指導手順の例

先述の CHECK IT を使いながら，指導手順の例を示す。まず，基本文 Tom was busy yesterday. を導入した後で，CHECK IT の「聞いてみよう」の活動を行う。英語を聞かせ，指示通りに課題を行わせる。その後で，どんな英語が用いられていたかという点に注目させるために，Look at B. Amy ran to school yesterday. Which can you hear, “Amy is late yesterday” or “Amy was late yesterday”? と質問して，もう一度英語を聞かせるとよい。

次に CHECK IT の「話してみよう」の活動を行う。指示通り，ヒントを参考にして発話させる。発話させた後，正解文が放送されるので，自分が発話した英語と同じだったか確認させる。絵を見ながら，英文の発音練習を繰り返させる。

発展的な活動として，表現した英語を文字で書かせたりすることもできる。CHECK IT は，絵と音声による構成となっており，文字による文の提示はなされていない。基本文が CHECK IT と連動しているので，POINT の欄に書かれた基本文を参考にして書く練習をさせることができる。

## 5. おわりに

文型・文法の力は，コミュニケーション能力にとって欠けてはならない力である。CHECK IT を通して，この基礎的な力の育成を目指していきたい。そして，文型・文法の学習にとどまらずに，よりコミュニカティブな活動に取り組ませていきたい。